えいじ新聞

HARUYAMA. G
新聞部編集局
２３年度
特別号
2011. 8. 11

連日、暑い中の作業ご苦労様です。無事二三年度工事も順調に受注し無事故にて作業を行っていただいております。猛暑の中、注意力も散漫になる事があると思いますので、しっかりとした体調管理をもって今後も事故や怪我のないようにお願いします。

日本中を震え上がらせた三月十一日、私は年度末工事を無事終わらせる事と今年度の新規工事受注へと動いているさなかの大災害でした。

この日は富谷現場の追込みと新規工事の福室現場へと巡回する予定で宮城県におりました。大きな揺れを感じたのは、現場の打合せとＳ君の悩みを聞くために富谷を訪れていた時でした。

私の立っていた場所は軟弱土で盛土されている場所で、かつて経験した事のない揺れを三度感じました。

尋常でない地震に驚き車のラジオのスイッチを入れたところ、大きな津波が来ると報じられていました。その時はあれほどの大津波になるとは思いもしておりませんでした。

現場の無事を確認した後、移動の車中で見たテレビの映像に目を疑いました。仙台市内は大渋滞で身動きが取れません。

それからの日々はライフラインの寸断と食料や燃料などの物資不足。予想だにしない事態に自然の猛威と地球の持っているエネルギーの前には人間はどうしようもないのだと思い知らされました。

しかし、復興・復旧に日本の力を感じます。　立ち直る速さ、これが人間の力なんだと。

あの日から5カ月、大きな混乱もなかった内陸の私たちは、すでにあの大変だった事を忘れかけてはいないだろうか。人と人との絆の中で譲り合い、助け合い、励まし合い復興にむけ立ち上がろうとしている被災地の状況をよく見て、他人ごととしてではなく私達も甘えず頑張ろう。

代表取締役　春山栄治

SAKAE DEVELOPMENT

決意の一新

今年度よりシンボルマークを一新しました。これまでのＳＫは栄開発の頭文字をモチーフにしたものでした。

この度の変更は株式会社　栄開発・有限会社栄技建そして今年十一月に宮城県に設立を予定している新会社を網羅するシンボルとしました。

緑色は豊かな自然を意味し＝大地私達が活動するフィールドを示し開発のイメージカラーとします。

青色は人間の源でもある水・川・海を意味し、技建のイメージカラーとします。

赤色は太陽＝エネルギー（力）をイメージし配色しております。

上記のマークは栄開発で使用しますが、有限会社　栄技建では緑と青が入れ替わります。

また、来年四月にはユニフォームもリニューアルします。他社にはないデザインで作成中です。

栄開発が出来る事

今後は我々グループの出来る事で復興の手助けをしてまいりたいと思います。

沿岸部の復興の一助となるべく沿岸部近隣に出張所と宿舎を用意す予定です。我々と一緒に汗して復興の力になる仲間を募集します。出張所の立地場所や人材に情報をお持ちであればご紹介ください。

一緒に顔晴（がんば）ろう

私達は相手の身になって行動しよう。出来る事があったら率先して取り組もう。力を合わせて明るい未来を切り開こう。

社員の被災状況

主な被災状況

実家流失
中嶋美鈴　黒澤大輔
菊池幸子
鈴木敏明（妻の実家）
家族・親類の安否
黒澤大輔　（父・祖父不明）
菊池幸子　（母・親戚不明）
豊間根明雄（親戚不明）
菊池辰夫（姉不明）※旧姓小林辰夫
被災された皆さまへお見舞い申し上げますとともにご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。
合　掌

有志による救援活動

有志から集まった義援金
８９，０００円
有志から寄せられた救援物資
お米９０kg　お菓子・ジャガイモなど食品
毛布　衣類
義援金は支援物資の調達に使わせていただきました。
「衣類、お米、紙オムツ、ロウソクなどの生活必需品」
救援先
豊間根の一時帰宅補助。
釜石市　小林・澤村
大鎚町　黒沢
山田町　豊間根・佐々木　中嶋
『その他の活動』
佐藤博・千葉真輝は、個人的に菊池幸子の遺族・遺留品の捜索補助。
阿部稔、豊間根地区の避難所へ米・他支援。
残った物資は、山田の避難所に贈与。

私が見た大震災

取締役業務部長　益子順一

震災があり内陸部でも停電が続き他の地域でどのような事が起きているのか解らないでいて、通電しTVで沿岸の様子を見た時、想像をはるかに越えた状態にビックリしていました。私達の会社には沿岸部出身者も多く、仲間たちの実家や家族の安否が気になっていました。少しずつ被災の状況が把握できると何か出来る事はないかと有志で話し合いました。会社の支援方針が決まり、有志の方々からの救援物資や義援金が集まり、とりあえず思いつく物資を調達して数名の仲間たちと現地に行ってあの惨劇を見た瞬間、津波の威力に衝撃が走りました。
避難所も騒然としていてどの様な声を掛けて良いのか解らなく『頑張れよ』としか言えませんでした。何とかしてやりたいと思う自分が居て、一人じゃ出来る事が限らてると思う自分が居て、なんか、個人の無力さを痛感して帰ってきた感じです。
今回の栄開発社員への震災支援に賛同・協力してくださった方々、本当にありがとうございます。
当社も『仲間』と言う思いが捨てたもんじゃないなって痛感した一日でした。
今回の支援活動で余った義援金（一万千百十一円）は募金として被災地に届くようにしたいと思っております。

報告　**菅野博忠**

平成二十三年三月十一日の東日本大震災の発生致しました時は、秋田取締役工事部長と遠野市のお客様のところで新しい工事の打合せを終えて、国道二八三号線を走行中に携帯電話の緊急地震速報から始まりました。直ぐに車を道路脇に寄せてテレビのスイッチを入れた途端に、私にとっては五十年間も見ていた釜石市の光景が目に飛びこんで来ますが、その直後から水位が上がって来る様子、そのまま見ていると津波の襲来する様子が映し出されました。その状況を見て、釜石駅までは津波が到達するなと思いました。
週末に実家に戻り、翌日朝からリュックサックに必要な物を詰め込み釜石に向い、数名の社員の自宅を訪問致しましたがかろうじて無事というお宅も有りました。次にお客意様の会社を四社程訪ねました。原型を留めている会社は一つもなくて、有る会社の社員さんは泥で汚れた書類を拾っていました。何と声を掛けて良いやらで、相手の方も一言『来たの』とだけ言ってました。私も『又来ます』とだけしか言えませんでした。その後家に戻った私は、我が家の被害状況を把握、プロパンガスのボンベが二本倒れて居ましたが復旧作業を行い、川から水汲みを行って居る最中に水源地に近い家ですから水も出ました。電気はさすがに二週間以上は駄目でした。自宅で寝泊まりは出来たものの、三月一杯は食糧品の購入が出来ずに公民館で避難生活を送ることとなりました。
月曜日からは内陸部の建設会社として、直ぐに被災地へ飛び沿岸のお客様の状況を把握したかったのですが自動車の燃料の給油もままならない状況で、被災地には電話も通じない状況で、被災地の人命救助や災害復旧の応援に当たる準備として、電話で連絡の取れる地元業者さんや中央ゼネコン

さんからの問い合わせに対応していました。当社では春山社長はこのタイミングで被災地への支援物資供給と被災者の救援活動の号令を掛けて被災地救援活動が始まりましたが、今思えば最初の二週間の動きが悪かったと反省致して居ります。

特に陸前高田市の状況を見て感じる事は、市の機能的な施設の有りました市街地が壊滅状態で、昭和五十五年頃に造成工事を行った高台にある鳴石団地の空き地が市役所機能やその他官庁、金融機関等がプレハブ作りで所せましと並んで居ります。この事は、今後の復興計画に大きな意味は持ちますが主旨が違うので触れません。私も同市は叔母家族も居りまして山沿いに住んで居るまでまったく頭になかったのですが、仕事で通り掛かった際には叔母の家など有りませんでした。一月以上経過してから人間の無事は確認されました。今現在、当社では二十五屯の重ダンプを二台瓦礫処理に向かわせて居ます。毎日、一般車両と同じ一般道を走行して瓦礫運搬を行って居ますが、ナンバープレートが付いて居ない事など誰も指摘して来ません。市民は一日でも早い復旧を願っています。つけ加えて置きますが自賠責保険並びに任意保険は加入して最善な状態で安全作業しています。

市民の皆様の話しを聞いても、『この状況は笑うしかないよ』と言っています。

ある建設会社では、会長さん、社長さんとその家族が被災され亡くなって居りますが、残された方々で積極的に事業継承しておりまして、当社も県内大手スーパーの仮店舗の造成工事をお手伝いさせて頂きました。

被災地地元企業、全国の企業が再生復興を願って意欲的であり、国も県も支援する方針であり、被災地住民の方々も地元に残りたいと言う願いを叶えたい。復興にあたり復興道路整備、社会資本の復旧整備、災害に強い町づくり等々、当社としても、重機土工事専門会社と致しまして活躍する場面は多々有ると思いますが、被災地域に蜜着して復興を応援して行く為には、春山社長はその地域に復興応援を主体とした営業拠点も持ちたいと考えて居ります。又、応援に当たりましては社会貢献度の高い仕事をする事が必要となりますし、社員の皆さまや協力会社の皆さま、又、支えて下さる各種業者の皆さまのお力添えが何より大切だと思います。

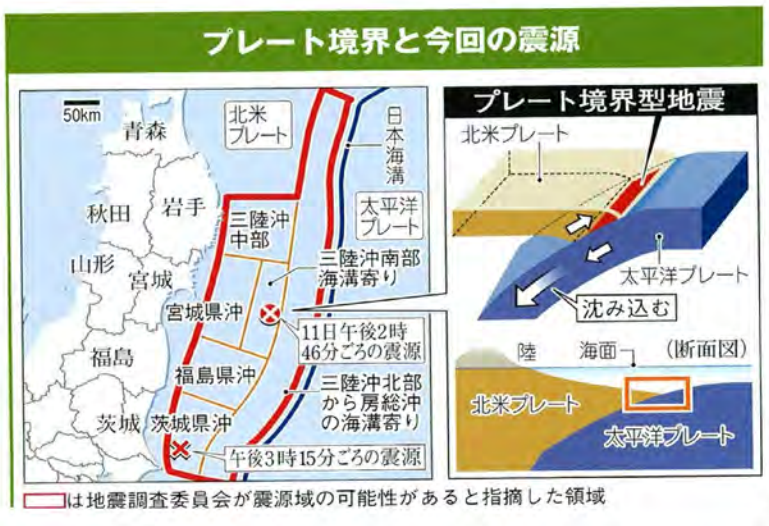
最後になりますが、社員並びに関係者の方々で被災されました方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

がんばれ日本・がんばれ岩手・そして栄開発。

知っておこう地震のメカニズム

仙台営業所　工事長　加賀山俊則

私は、三月十一日の当日は、富谷道路改良工事で社長と一緒に被災しました。帰りにの車の中で見た、ワンセグテレビで見た映像は物凄い状況でした。実際に見た状況は三月十六日に南蒲生処理場のゲートを破壊し、下水道を生で海に放流する仕事でした。産業道路と言う物が仙台には有るのですが、そこは多少の建物の被害や信号の被害有るもの、振動６強と言う割にはこんな物かと言う状況でした。仙台営業所のある場所は仙台の山の手なので被害らしい物は有りませんでした。産業道路から一歩立ち入った場所は地獄絵図とはこの事なのと言う状況でした。車に×マークが有りましたが、乗り込み当日は意味わからず通過しましたが、翌日聞いた情報で、あれは、中身が入っている（被災者）車だと聞きました。栄開発は３月１６日から震災現場で活動を開始しました、これが早かったのか遅かったのかは解りません？これまでも栄開発はあらゆる震災復興の現場で頑張っていますが、答えは五年後、十年後に評価去れるのかは、解りません？まだまだこれからも震災復興の仕事も続くと思いますが、全社一丸となって頑張って行きましょう。



(株) 栄開発の関わる災害復旧工事

赤表記の現場は現在施工中
紫表記の現場は終了した現場

編集長の見た福島第原発

三月も中旬、毎年この頃は年度末と言う事もあって、受注工事の工期に迫られ、完成検査の対応に奔走しているところでした。午後二時四六分、私は栄技建の事務所にいた。モータープールでは重ダンプのベッセルを上げタイヤ交換の真っ最中。もうダンプが倒れてしまうと作業していた作業員二人と非難した。岩手県内は地震直後に停電、直後の情報は車のラジオからしか得られない。アナウンサーの声から緊迫した状況が伝わってきた。大船渡には義理の弟が県職員として単身赴任している。翌日になっても安否が確認出来ない。

十三日午後三時三六分このころ福島原発1号機で水素爆発が起こっていた事もしるよしがなかった。ましてや、自分が福島原発の復旧作業にあたる事になろうとは思いもよらなかったのである。

三月二一日、熊谷組の応援に栄開発の第一陣が福島に乗り込んだ。私は三月二八日の完成検査を受けるため会社に残った。

社長を筆頭に先発で乗り込んだ連中に不安が無かった訳ではない。自分より年の若い従業員を先に向かわせてしまった悔いがずっとあった。

数日たって無事、岩手県の完成検査を終え、翌二九日から乗り込む際、家族には福島県のいわき市に津波の災害復旧に行くと告げ現地へと乗り込んだ。

漫画のサラリーマン金太郎を建設業に従事する自分のバイブルとしている私にとって、金太郎ほどの技量もなければ女にもてるわけでもないが困難な工事程力が湧いてくる。

第三陣として向かったメンバーは六人、そのうち四人は第二陣で従事した経験者だった。北上を出発し四時間すると避難区域に差し掛かる。規制区域への入場はサッカー施設のＪビレッジ、動向した一人はベイブリッジと呼んでいたがここは福島、そんな訳がない。

そこは、自衛隊車輌やテレビで見ていた白装束の連中が忙しそうに行き来している。

施設に入場すると、経験者から着替えのレクチャーを受けるのだ。

綿の手袋の上にゴム手をはめ、フランスはデュポン社の防護服（タイベックス）を着る。頭には給食当番以来の帽子をかぶり防護マスクを選ぶ。

これが、先ず一仕事なのである。ここは現場から半径２０㌔のラインにあたる。ここからまた、車を乗り換えて、現地に向かうのだ。ここはゴーストタウン、取り残された犬と家畜の牛ぐらいしか目に付かない。

いよいよ第一原発に入場だ。施設内には沢山の桜が植えてある。お花見には最高なところだなあと思いながら、免震棟に設置された緊急対策室に入っていった。

ここでまた一仕事である。ここに入るためにＪビレッジで着てきた物を脱ぎ捨てなければならない。順番を間違えると、素手で放射能汚染されたものに触ってしまう。熊谷組の事務所は二階の緊急対策室の隣に設けられていた。階段には他社の作業員たちが陣取って休息をとっている。

廊下の壁には海外の子どもたちから寄せられた応援メッセージが掲示されていた。思わずグッときた。

緊急対策室の様子　４月

緊急対策室には常時一〇〇人以上の東電とその関連会社の職員が各部門に分かれて二十四時間体制で詰めていた。中央部には円状になった会議場があり、壁には大きなモニターで東電本社の記者会見の様子などが映し出されている。まさに臨戦態勢だ。

かつてこれと同じ状況を見たことがあった。それは京都国際会議場で青年会議所全国大会の運営に携わった時のことだ。それと同じく考えるのは彼らに失礼だが、自分もここの一員として頑張ろうと身が引き締まる。来てよかったと思った。

社長には申し訳ないが、ここに来て初めて本当の意味で感謝した。

いよいよ現場用に着替え直して出動。

互いに、背中にマジックで名前を書き合い、防護マスクの隙間をブチルテープで目張りし合う。

胸にＡＰＤと言う放射能線量計をセットして出発の掛け声は「ご安全に！」危険な所に向かって行くんだと緊張感が生まれた。

背中の名前を見ないと誰が誰なのか全く分からないほどみんな同じ格好をしている。不気味だった。外で荷台に五〇人ぐらいは乗っていただろう４ｔトラックが建屋に向かって走っていく。

初日の作業は正面に１号機が見える場所での作業だ。

辛い、何が辛いってマスクに締め付けられて顔や頭が痛い。テープで目張りされているし、屋外ではタイベックスのファスナーも開けられない。マスクを外そうものなら即内部被ばくだろう。

施設内を車で移動中、ラジオは常に付けておいた。それはまだ余震が頻

繁に起きるからだ。そのラジオからオフコースの「生まれくる子どもたちのために」が聞こえてきた。マスクの中で涙があふれた。理由はうまく説明出来ないけれど、この事故はきっと時間がかかる。僕たちのためよりも未来のために今やらなければと強く思ったからかも知れない。

一日の作業時間は被曝量と体調管理のもとで、現場に二時間を午前午後で１回づつに制限されている。

少なくとも私たちは、このころマスコミで取り上げられているような扱いは受けていなかった。

初日は、順番で私と吉岡さんと宮崎さんが免震棟に泊る事になった。

レトルト食品や非常用食料が主だが食料は足りなくはなかった。ただ作業が終わると何もする事がない。机の周りを整理してみたり、食料の整理をしてみたがなかなか時間がつまらない。幸いＮＨＫしか写らないテレビモニターが事務所にあったのでニュースは見る事が出来た。

考えてみれが此処は１号機から二〇〇ｍも離れていただろうか？テレビの向こう側にいたらなんでそんなところにいるんだよって思ってたに違いない。

実は今回が泊りで現場に付く初体験だった。兼ねてからから心配していたことがついに現実になった。

爆音だ！

同じ部屋続きに東電土木班と大成建設の職員や作業員も寝泊りしていた。

どうやら爆音は半径４ｍ圏外、隣の連中からだ。

いびきの音が人の眠を妨害してくる。見えない放射線もやっかいだ。放射線に腹は立たないが、いびきには腹が立つ。

酒でもあれば酔って寝れば済むのだが有るのはペットボトルのミネラルだけ。あったとしても此処は緊急対策室である。寝ずに待機しいればいいのだ。

朝になると、朝食の配給の案内が流れる。

受け取り場所に並ぶ。地震以来どれだけ並んでるんだろうと、何度となく考えるようになっていた。

並んで貰えるものは、カロリーメートやパン、野菜ジュースなどである。朝食を済ませると朝のミーティングをする。「熊谷組や東電の職員が今日のミッションは・・・」などと話している。

ミッションなんてなんかプロジェクトに参加してるなって感じ（笑）

管内アナウンスンでも「本部のＭＭを始めます」なんていうのが流れてくる。ミッション・ミーティングなんだと勝手に訳して解釈してカッコいいからこれ使えるなって、思ってた。あとから聞いたところモーニング・ミーティングだと知らされ（涙）

毎日のミーティングで結構詰めて相談しているつもりでも、いざ現場に入ると、偶発的、突発的に状況が変わるので、なかなか思うようには事が進まない。

テレビでもよく報じられていたが、その場にいると良くわかった。通常なら二〇分で終わる作業に二時間もかかる有様なのだ。

最初のうちはずいぶんいらだったりもしたが、ここは何が起きても仕方がないと割り切ることでそれは解消された。

とにかくみんなで無事帰る事が大前提なのだから。

そうこうしながら、与えられた任務をこなし七日が過ぎた。

疲れはそれほどでもないが、かなり気を張っていたのが自分でも分かる位だった。

原発を出ててくる頃には場内の桜はむなしく満開に咲いていた。

一回目の任務から帰宅し、初めて家族に原発に行っていた事を打ち明けた。不安で隠していたわけではなく、正直「大丈夫だ」の説明がうまく出来なかったからかも知れない。

通算で四〇日余り従事させていただきました。大変貴重な経験です。今もまだ各地の被災地で頑張っている皆さん、各地域の復興のため、新し日本の架け橋になろう。みんなで未来を切り開いていきましょう。

皆さんご安全に！

スポーツ

北の空　君に無限の可能性

今年のインターハイは青森・岩手・秋田の北東北三県で開催されています。

日曜日に花巻でハンドボールの試合を見てきました。

ここで勝つチームの条件を分析してみました。

特に団体競技については監督・指導者が選手の良いところ弱点を良く見抜きフォローし成功へと導く愛情を兼ね備えている。

選手は指導者の愛情を感じ自分の能力の限界に挑む。

そして監督・指導者・選手が同じ方向（夢）に向かっている。

これが勝つため条件になっているようだ。

下手な指導者ほど必様なアドバイスを見いだせず思い余って、生徒（子ども）に向かって「なんで出来ないんだ」とののしったりする様です。

また優秀な選手が個々に目立とうとするチームは感動を生みだす事も出来ない。

螺焼き（つぶ）

最近、電力会社のヤラセがニュースでよくやっていますが・・・・。

駄目なんですか？

この前まで選挙の度に〇〇人動員頼むって言われてやってきてたんですけど？

テレビショッピングでおばちゃんたちが絶妙のタイミングで歓声上げてるの違和感有るけどあれは？

東電は違法建築してないのに何で責められてるの？ここに建てて良いって言ったの政府でしょ。防波堤の高さ決めたの国でしょ。